

五月例会レポート

5月12日（日）午後2時より例会が始まりました。会場の東京海洋大学キャンパス白鷹館の辺りは、新緑の香りに海の香りがほのかに交じる、そんな午後でした。



参加者は50名、出句数150句。東京近郊だけではなく、遠く山形県からおいでの方もいらっしゃいました。高得点句は9点句が1名、5点句が5名。高得点句については、選んだ方の句評があります。解釈も鑑賞もひとそれぞれ、句会の醍醐味です。

主宰の選は、今回は☆が23句、☆☆が6句、☆☆☆が5句でした。

☆☆☆に選ばれた方のお話によると「神代植物公園に1時間ぐらいひとりでこもったら、この句が出来た」とのこと。「こもる、というのはかなり有効な方法でしょう。

『ちょっと我慢する』というか」との主宰のお言葉。

そういえば以前、主宰と句会をご一緒した折に、じっと何かをご覧になって長らく佇んでいる、とても声を掛けられない、そんな場面があったことを思い出しました。

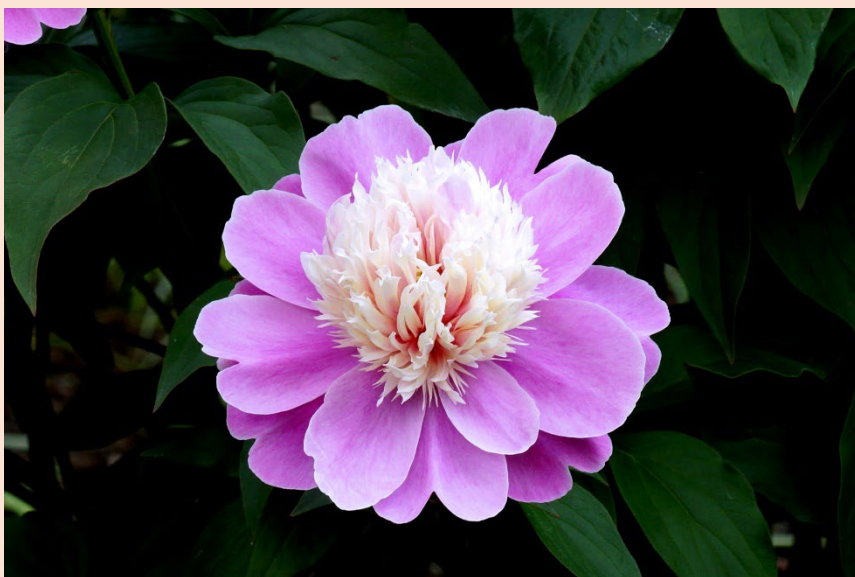
ついつい句会では提出時間に間に合うように焦って、なんとか句をものにしようとするのを大いに反省。俳句を作るうえでの大切な姿勢というものをあらためて痛感させられました。

(編集長から連絡) 結社誌「青麗」9月号の投句締切は6月15日です。来週、5月16日には投句フォームをホームページにアップし、投句できるようにします。締切まで1ヶ月間あります。投句方法に自信のない方は早めに投句すること。ログインがうまくいかない場合は mail@seirei-haiku.jp へメールしてください。

(ジョニー平塚さんから連絡) オンライン句会にはオンライン句会の良さがある。主宰の姿が画面の目の前にあり臨場感がある。初回は無料、お試してみてください。黒田杏子先生ゆかりの鎌倉全国俳句大会と黒羽芭蕉の里俳句大会(青麗 HP「高田主宰が行く」にて公開中)のご案内もありました。

最後に、主宰からお言葉がありました。「結社立ち上げの際の混乱も落ち着いてきたので、ロングランの展望をもった吟行句会を企画しようと思っています。皆さまにお声をかけますので、一緒に考え行動していきましょう」

ますます楽しい青麗の未来に胸ときめかせ、句会は終了となりました。



(文責・写真：智久薫子)